

令和7年度第1回下野市社会教育委員会議 議事録

審議会等名 令和7年度第1回下野市社会教育委員会議
日 時 令和7年5月27日（火）午後1時30分から午後2時30分まで
会 場 下野市役所3階 304会議室
出席者 花澤公久委員長、水田あけみ副委員長、塩沢建樹委員、小林直子委員、鈴木一恵委員、
柏崎松美委員、鈴木祐磨委員、加藤信子委員、小島恒夫委員、増渕晴美委員
（欠席委員）粥見美夏委員
市側出席者 石崎雅也教育長
事務局 生涯学習文化課 野口修一課長、猪瀬貴之課長補佐、近藤沙也佳主事
公開・非公開の別 （ ☐ 公 開 ☐ ・ 一部公開 ☐ ・ 非公開 ☐ ）
傍 聴 人 なし
報道機関 なし
議事録（概要）作成年月日 令和7年5月28日

【協議事項等】

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 議題 《下野市公民館振興計画（第三次）及び下野市読書活動推進計画の策定について》
（事務局）これより議事の進行は花澤委員長にお願いする。
（1）計画策定に関する諮問について
（花澤委員長）事務局より説明を求める。
（事務局）社会教育委員の主な職務には、社会教育に関する諸計画を立案すること、教育委員会の諮問に応じ意見を述べることとある。今年度は、下野市公民館振興計画（第三次）と下野市読書活動推進計画の2つの計画策定を予定しており、本日、教育長より社会教育委員会に計画策定に関する諮問書を交付する。
＜諮問書交付＞
＜教育長退室＞
（2）計画策定の方針について
（花澤委員長）事務局より説明を求める。
（事務局）＜資料に基づき説明＞
（花澤委員長）事務局より説明があった。委員から質問等あるか。なお、社会教育委員会議の年間スケジュールについて説明があったが、日程は計画策定の進捗状況等により見直し、後でお示しするとのことであったので、あくまで現時点における案ということでご理解いただきたい。

- (小 島 委 員) 資料 2 の諮問書に、周辺の市町図書館では、静かな環境だけでなく楽しい図書館にしているとの記載がある。ビブリオバトルを行っている私のサークルでも参加者が増えており、昨年は石橋高校の生徒がビブリオバトルの全国大会で優勝した。市にはそのような誇れるバックグラウンドがあるので、私の提言としては、これからの図書館は静かな読書だけでなく、また、ビブリオバトルは読書推進に寄与するものであり、読書活動推進計画にぜひ盛り込んでいただきたい。
- (事 務 局) 市子どもの読書活動推進計画（第四次）でも、8 頁「⑬学校の特色を生かした読書指導・読書活動の実施」に学校でのビブリオバトルに関する記載があり、いくつかの学校では実際に行っている。ビブリオバトルは、南河内図書館でも今年度計画しており、次期計画にも引き続き盛り込み進めていきたいと考えている。
- (小 島 委 員) IT パスポートの資格取得にあたり、日本はデジタルに関し世界でも遅れを取っていて、国際競争力も低下している状況を痛感した。そのことは、社会教育の観点からも課題ではないかと考える。市役所内では、職員に対し資格取得を促進するための補助制度を設けているが、市民に対しても資格取得を促進するための取組が必要ではないのか。高度情報化社会においては、「IT に強い下野市」として社会教育の中でも謳い、市民の意識を高めていただきたい。
- (事 務 局) 課としても、高度情報化社会への適応は課題であり、ICT に関しては力を入れていくべき項目と考えている。公民館の各種講座企画の中で、次年度の開設に向けて努力したい。
- (小 林 委 員) 読書バリアフリー法に関連しての質問だが、昨年石橋図書館でも、読書バリアフリー関連のいろいろな講座を開いていたと思うが、図書館において具体的な計画が進んでいるのか。実際にはりんごの棚を展開しているが、少数の資料しかまだ揃えられてないように感じている。また、読書バリアフリーのサポーター育成の講座などは、1 年ぐらい前から始まってどんどん資格をとる方もいるが、市の支援があれば、関心がある市民がより多く参加できると思う。読書バリアフリーに関して、そういう取組が計画案の中に盛り込まれているのなら伺いたい。
- (事 務 局) 本市には幸いなことに読書に関係するボランティアサークルがたくさんあるので、計画策定にあたり、できること、やっていきたいことについて意見をいただきながら進めていきたい。また、人の手を介しての読書の拡大のほか、現在、電子図書館の導入の準備も進めており、最初から多数のコンテンツの提供は難しいかと思うが、電子図書には音声ガイダンスによる読み聞かせという機能がついてるものが多く、そういったものも併せて拡充していきながら、すべての方が読書に楽しめるような環境づくりに取り組んでいきたい。図書館運営協議会などを通じて、関係するボランティア団体に相談する機会を設けていきながら進めていく。
- (小 島 委 員) 先週テレビで取り上げられていたコンピューターによるフィッシング詐欺についてだ

が、海外からの怪しげなメールでも、以前はおかしな文章で判断できたが、最近では生成 AI の発達により日本人が書いたような文章となっていて、区別ができず多くの方がだまされるケースがあるとのことだった。このような分野についても、社会教育の一環として行政による対策が必要だと考える。世の中が激しく変化する状況では、そういう被害に遭わないように、公民館講座や市民への情報発信をしないといけないと思う。現在は、読書などの文字情報の時代ではなく、幼児であっても TikTok など遊んでいる時代です。社会教育でも遅いように思われるが、そういった怖さについて、学校ではどのように子どもたちに教えているのか。

(塩 沢 委 員) 学校では、情報の怖さについて、技術家庭科の技術の分野で子どもたちに指導しており、また、親子の IT 講座ということで、外部の講師を呼んで年 2 回の講習会を毎年実施している。子どもたちは、石橋中学校では毎日タブレットを持ち帰るので、TikTok だけでなくいろいろな SNS もそうだが、とにかくネットには精通している。システムはどんどん進歩していくので、そのことを追いかけるのではなく、あくまでもツールなので、人としてどのように使うべきかといった道德の観点から、心を耕しながらということで学校では取り組んでいる。専門家を呼んで勉強会を開いたりといった親子講座についてはどの学校でも実施している。

(小 島 委 員) 私の私見としては、出回っている情報の中にはフェイクがあり、非常に怖いものであることを、子どもたちに教えて欲しい。問題が起こる前に、ぜひ、学校教育でも社会教育でも取り組んで欲しい。

(花澤委員長) いろいろな商法や海外からのアクセスなどがどんどん入ってくるので、予算の兼ね合いもあるし、すべてに渡って対処することは非常に難しいと思う。対応の仕方も、いろいろな分野の専門家の意見を聞いて出さざるを得ない部分もあるので、行政として対応できるところは対応していただきたいと感じる。

(柏 崎 委 員) 塩沢委員から学校では講師の方を招いてといった話があったが、下野市青少年育成市民会議でも、「学び合い事業：ネット時代の歩み方講習会」の開催希望のあった学校に講師派遣を行っている。それで十分だとは思わないが、そういった親子で学び合う機会を毎年提供している。私は少年指導員もしているが、話を伺う中で、そういった情報の提供など少年指導員として協力できるものがあれば、さらなる活動が必要かなと感じたので、警察の方と連携しながら進めていけたらと思う。

(花澤委員長) ありがたい話であり、各立場の方がやれる範囲内でやることも 1 つの便法と思う。

(鈴 木 委 員) 今の青少年育成市民会議の取組に関連して、私が進めていきたいと考えていることは、公民館や図書館などを子どもの居場所にしていくことで、強化して取り組んでいけたらと思っている。子どもたちには、家庭と学校のほか、身近な社会に出るなど、さまざまな居場所が求められている。今の公民館にはたくさんの中学生在が来ていると思うが、さらに強化していき、公民館や図書館が子どもたちが行きやすい、過ごしやすい

といった場所に、また、子どもたちだけでなく地域の方々と交流できるなどの施設の仕組みを作っていきたいと思う。計画策定にあたり、アンケートを中学生にも実施することのだが、こども家庭庁ができて、子どもの権利をすごく大事にしていこうといった流れもあるので、子どもたちの声をしっかり聞き、それを反映するといった部分を疎かにしないようにできたらいいかなと思う。

(事務局) 市でも、子どもの居場所づくりについては大きなテーマのひとつと考えており、石橋公民館が複合化したことで、様々な世代の方が集まる場所になっているので、そういったものを参考に、他の施設でもいろいろな動きができたかと考える。

(小島委員) 自治医科大学が市内にあり、市とも連携協定を結んだので、この社会教育の中で、大学の力を借りて何かできないか考えてもいいのではと思う。大学を有効活用するような視点も必要で、そのことも留意して計画を策定して欲しい。

(事務局) 自治医科大学と連携して実施している事業は既にあり、市教育委員会との共催事業として、今年も6月下旬からの毎週土曜日、3週に渡って健康に関する講座を開催する。今年のテーマは「気候変動と健康リスクに備える」ということで、毎回2人の教授による講演があり、各回とも定員500人で実施する。この講座は引き続き実施していきたいと考えるが、その他にも連携ということで、昨年度から2回目となるが、先日も自治医科大学医学部1年生による行政演習ということで見学実習を受け入れ、123名の学生が5名程度の編成チームで各課の取組について勉強していった。そういうところで連携しながら、また、市長も常日頃から医療を意識したまちづくりと言っており、それだけに満足せず、様々な点で連携出来るところを探っていきたい。

(増淵委員) 資料4に、読書活動の推進と図書館サービスに必要な施策の方向性を示すため、図書館基本計画と子どもの読書活動推進計画の2つの現行計画を統合して新たに「下野市読書活動推進計画」を策定するとあり、今後、図書館協議会でいろいろ意見調整があるかと思うが、柱となるものは残していただきたい。今まで、図書館協議会では、図書館基本計画を基に図書館の運営について評価してきたと思うが、計画統合によって、そういったものが無くなったということがないようにお願いしたいし、図書館協議会にも期待したい。

(事務局) 2つの現行計画の中身を見ますと、重複するものが多く、読書活動推進を主な目的として計画を策定していきたいと考える。市民全員が読書活動を推進するためには、図書館は重要な役割を担うことになるので、図書館ではどのようなことをやるべきなのかを計画の中に盛り込み、計画策定後は、図書館の企画内容を含めた管理運営に関して図書館協議会に諮り、意見をいただきながら進めていくといったイメージで考えている。

(花澤委員長) 以上で議事は全て終了した。進行を事務局へお返しする。

5. その他

(事務局) 令和7年度生涯学習文化課事業概要ということで、事業一覧を参考に配付した。

栃木県社会教育委員協議会評議員の選出についてだが、今年度も県から選出依頼があり、1年任期となるが、今年度も引き続き増渕委員にお願いしたい。また、下野市生涯学習推進協議会委員については、2年任期の2年目となるので、小島委員に引き続きお願いする。よろしいか。

(委員一同) 異議なし(拍手)

6. 閉会